

- ◆企画名 特集本展示「第4回 本屋大賞」
日 程 2018年12月12日(火)～12月25日(月)
場 所 関西大学総合図書館2階 開架閲覧室
参加者数 14名(ピア・サポータ10名、研修生4名)
目 的

知名度のある文学賞の「本屋大賞」の入選作を特集することで、総合図書館が大衆文学の収集を行っていることを周知し、図書館の利用頻度の底上げを図る。

内 容

図書館利用者の勉強以外での本を読む機会を増やすため、本屋大賞の入選作のうち、総合図書館に所蔵している書籍を調べて、主に2010年代以降の書籍を入選時のランクごとに分けて展示した。

広報のためにポスターを作成、コアラエリアを始めとする総合図書館各所に掲示した。また、前回の特集本について掲載したコアラ通信を作成することで、特集本の恒常的な利用を可能とした。

効 果

展示期間中に17冊が合計19回借りられた。今回は他の特集本と比較しておよそ半分程度の期間であったが、7割程度の書籍が借りられた。また、期間中に4冊に予約が入った。

改 善 点

メンバー内での特集本搬入日時の伝達が上手くいかず、参加人数が非常に少なかった。また、他の企画との兼ね合いもあったが、展示期間が2週間程度となってしまったことは、企画の利用が比較的進まなかったことの大きな要因であると認識している。上記の問題は、KU コアラ全体に言及できることであるが、伝達の円滑化と企画・実行の前倒しによって改善が可能である。

感 想

当初考えていたより、多くの人々が総合図書館で大衆文学を借りていただが、1Q84が3冊とも一度も借りられないなど、想定外の事態がいくつか生じた。しかし今回の企画は、前年度と異なり、企画担当班によって計画・実行され、ポスターやコアラ通信の作成など今までの特集本にない挑戦を行ったにも関わらず、大過なく終了できたという事実が、この企画が成功であったことを証明しているのではないかと思う。